

「対比」関係をつかんで本文を整理してみよう I

例題 A 次の文章を読んで、後の問に答えよ。

① 何の変哲もないふたつの教室。同じように前をむいて並んだ子どもたちが思い思いに自習している。部屋の大きさや形、席の数や配列、どこをとっても何らかわりはない。ただひとつの違いは、**第一の教室では監督が前からにらみをきかせているのに、第二の教室ではうしろにいる、いや、いるらしいとしかわからないという点にある。** たったこれだけの違いが生徒たちの行動様式に**根本的差異を生じさせると言えば、大げさにひびくだろうか。**

② 遊びたいさかりの子どもたちにとって、**第一の教室は厳しい環境のように見える。****A** **しかし、そんな環境でも、慣れてくればそれなりの抜け道を見つけることができる。**机の上に立てた本のかげでイタズラ書きをしたり、隣の子とおしゃべりしたり、監督がちよっと目をはなしたすきになかなり派手なイタズラをすることだってできる。**B**

③ 監督の目が届きにくい教室の周縁部ともなると、要領のいい悪童達がけっこうよろしくやっているようだ。休み時間になって監督が席をはずすと、**そんな連中のうちとびきりの札つきが監督席にすわって面白おかしく監督のまねをしてみせ**

【出典】  
浅田 彰  
構造と力

第一

5 ハ

るだろう。それを見て笑いころげる子どもたちの顔にいきいきした遊戯の歡びを見てとるには、ほんの一瞥で十分である。**C**

④ **第二の教室ではどうだろうか。**一見したところ、ここは第一の教室よりもずいぶん自由な感じがする。事実、少々さぼって手あそびをしたりしていても、うるから叱声がとんでくる。ケハイはない。どうやら、ちよっとした遊戯は黙認されているらしいのだ。増長してだんだん派手なイタズラを考えるうち、**しかし、子どもたちは何となく背後が気になりはじめる。**もしかしたらボクはうしろから目をつけられているんじゃないだろうか。**それを確かめようにも、振りむくことだけは決してできないようになっていたのだ。****D**

⑤ **したがって、監督が一体いまそこにいるのかさえはつきりわからないのだが、その不在の視線はやがて確実に子どもたちのうちに内面化されていき、ひとりひとりが自分自身の監督の役割を引き受けることになるだろう。** **a** **テッテイした\***対評価システムがそれに輪をかけるように作用して、教室をたえざる自主的相互競争の場に変えていく。

⑥ **ジャイをいっそう救いのないものにするのは、この場が空間的にも時間的にも均質にひろがっているということだ。** 実際、第一の教室と違って、この教室には周縁部がない。監督の視線の位置が確定されないということは、それがあらゆる位置に遍在しているのと同じことである。**また** **決まった休み時間があるわけ**

第二

例題 A

4

3

2

1

0

30

25

20

15

10

5

0

30

25

20

15

10

5

0

30

25

20

15

10

5

0

30

25

20

15

10

5

0

30

25

20

15

10

5

0

30

25

20

15

10

5

0

でもない。ふだんから、ホウニン<sup>d</sup>して自由にやらせているのだから、とりたてて休み時間などつくる必要はないというわけだ。ここでは、子どもたちは、遊戯の自由を与えられているにもかかわらず、いや、まさにそうであるがゆえに、その自由を思うままに、コウシ<sup>e</sup>できないという仕組みになっているのである。

35

問一 傍線部 a～e のカタカナを漢字に改めよ。

|   |   |   |   |   |
|---|---|---|---|---|
| a | b | c | d | e |
|---|---|---|---|---|

問二 本文からは、次の一文が抜け落ちている。正しく補うとすれば、空欄 A  
 ↓ D のどこに補うのが最も適当か。その箇所を記号で答えよ。

気ままに席を立てて遊ぼうにも、ちよつと顔を上げれば監督と視線を合わせることになるのだから

|  |
|--|
|  |
|--|

問三 傍線部 1「子どもたちは何となく背後が気になりはじめる」とあるが、ここで子どもたちが意識しはじめたものを、筆者はどのように表現しているか。最も適当な五字以内の語句を、本文中から抜き出せ。

|  |  |  |  |  |
|--|--|--|--|--|
|  |  |  |  |  |
|--|--|--|--|--|

問四 傍線部 2「この場が空間的にも時間的にも均質にひろがっているということだ」とあるが、「第二の教室」の生徒にとって、「時間」が「均質」であるとは、具体的にいうとどういうことか。本文中の言葉を使って二十字以内で答えよ。

|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|
|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|

問五 筆者の考えに合致するものを、次の中から一つ選び、記号で答えよ。

- イ 子どもたちは、自分たちを監督する大人の視線から逃れられれば、本質的な自由を獲得することができる。
- ロ 監督の存在が不明確な状況下では、子どもたちはどこまでも増長し勝手気ままなふるまいをするようになる。
- ハ 生気に満ちた遊戯の喜びは、不自由な状況のなかで、そのような状況とわたりあうところから生じることがある。
- ニ 子どもたちが競争するようになるのは、遊戯の自由を奪われた場で、大人の評価を気にしながら活動するからである。